磐城日日

發行所 磐城日日新聞社
福島縣小名浜町渚廻51
電話代表387番
振替仙台31,355番
編集兼發行人 長瀬芳郎

今日のメモ
名奉行 大岡越前守歿(寳暦元年)

消防協會平支部管内 消防團幹部會
三百余名出席湯本で開く

縣消防協会平支部管内第二回幹部会は約三百名参集して十七日午前十時より湯本町公民館に於て開催された

支部長佐藤三平氏の挨拶参議院議員木村守江氏、衆議院議員關内正一氏の祝辭、毎日新聞報道課長松本宏氏の特別講演等があり次いで會議に入り次の提出議案について審議した

△鐵骨火の見建設に対し國庫補助請願について 提出者豊間町消防団
△火災時應援のため消防水利連絡について 江名町消防団
△消防水利について縣補助請願の件 平市消防団
△消防水利について國庫補助の件 江名町消防団
△視察及見學による消防組織向上について 豊間町消防團
△火災應援協定について 鹿島消防団
△規律訓練にラッパを使用すること 大野消防団
△其の他數件

なお二十五年度の縣火災概況について次のような説明があった

火災發生件數 二八七件
燒失戸數 四九二戸
〃 棟數 八八七棟
〃 坪数 二六〇六、四〇〇坪
火災損害額 三九二、一八三、六九六圓
罹災者 二、二七四名
死者 七名
負傷者 四一名
一日平均火災件數 〇、八件
縣民一戸當火災損害額 一、〇八二圓

小名濱町の農業委員會

小名町農業委員会は二十日午前九時より役場会議室に於て行われる、議題は強制譲渡計画及譲渡令施行令等の認可申請外許可、承認申請、農地幹旋、土地改良事業實施等の七項目である

錦中學校でソフトボール

錦町中学校生徒会主催の放送完成記念ソフトボール大会は十五日午后一時より中学校々庭で開会男子B組女子C組が優勝して男子には優勝旗、女子にはカップが授與された尚この日中學校体育連盟より男子三年C組阿部豊治君女子三年B組根本幸子嬢が晴れの中學校代表として表彰を受けた

補導諸問委員會 湯本常磐小で開く

湯本町内學校補導諸問委員会は十七日午後一時から常磐小學校に各校長、少年保護司、湯本地區署防犯係其の他十四名が参集して二十七年度計画等につき協議した

△問題の少年を対象とした特別学級の設置
△多季休暇に際し各家庭に休暇の手引等を配布して少年を保護する
△各教官は冬季休暇中町内を巡視する

などを決定した、また要望事項として

△各家庭は学校に對して關心が薄く学校だけに依存せず家庭も協力してほしい
△映画は父兄同伴にてとなつている、学校より家庭に歸れば家庭人であり父兄の善導を望む
△大人がよく酔つた上で墓石を倒す者があるが大人のやることをとかく子供は見習うものであり大人教育が必要だ

また湯本地區署少年係の阿部部長は「問題の少年を対象にした特別學級は縣内では白河、二本松の二ヶ所に設置されているが二本松の場合は一昨年より實施して現在では相当の効果を上げている、やはり最初は問題の少年だけに色々な話もあるが少人數であれば成功する要は教育者がよい指導人であればよいと思う、特別學級は早急に實施したいと思つている

グランド建設具体化す 二十日發起人會を開く

小名浜総合グランド建設第一回準備委員會は十五日午后二時より小名浜第一小学校應接室に於て行われたが在町名士等発起人七十五名に依つて小名浜総合グランド建設期成同盟發起人会が結成され来る二十日午后二時小名濱第一小学校社会科室に第一回の總會を開催して建設促進運動の具体的な協議を爲すことになつたこれにより事務局及實行委員等の専門委員会も設置され急速な運動がいよいよ展開されるものとみられる

磐崎村議會の出納監査

磐崎村議会出納監査委員会では十二日より十五日まで役場会議室に於いて昭和二十四年度の會計監査を行つた

錦中の放送設備完成

菊多方部小中學校放送設備のナンバーワン錦町中学校では放送室、受信室の放送設備を去る四月より町、PTA、学校關係者等の援助を得て予算二○萬を投じ平市若松無線商会の施工によりこの程見事に完成したが十五日完成を記念してソフトボール大会を開催した、放送室は音響効果に重点をおき下は疊敷き周囲はテックス張りのモダンな放送室で各教室に切替放送も出來教育上非常な便利を與えるもので佐川校長も「これだけの設備は一寸よそにはないでしよう」と自慢の程をほのめかしていた

渡邊中鐵棒建設 「いなご」の益金を生す

渡邊村中学校では過般生徒が「いなご」取りをしての益金一萬八千圓を得たがこれによつて校庭に平鐵棒六間、鋼鐵棒三間を建設することになり十五日より工事に着手した、これに使用する木材はPTA會長大平菊義氏の寄附によるもので大工鈴木與丸氏及鍛冶小野義次氏は勞力奉仕をなしている

郡校長會で給與の打合

石城郡校長会は昨十八日平第一小學校に於て午前九時半より教職員に對する年末給與の打合せを行つた

小名濱一中 日卓杯獲得

日卓杯爭奪平、石城地區豫選卓球大會は十六日午前九時より平市公會堂に於て行われ各部大いに士氣あがり競技は終始熱戦を展開したが一般は小名浜クラブが優勝中学の部では男子好間中学女子は小名浜一中が優勝した

小名濱町節電協力 標語募集に就て

小名浜町節電協力会長 小野作太郎

日本全國で昨年一ヵ年に生産した電力量は四五〇億キロワット時、このうち水力發電が大半を占め三八四キロワット時、石炭をたいて發電する火力發電が六六億キロワットでありました。一〇〇ワットの電球十個を一時間つけて使つた量が一キロワット時ですから皆様の御家庭で毎日一時間使つたとして一年に三六五キロワット時になります。これを見ても昨年一ヵ年の発電量がどんなに多いかが想像されます。昨年は降雨量が多くて毎年の標準から見ると水力で一〇%よけいに発電出來たのですが、今年は夏から秋にかけて台風がほとんど日本をそれてしまつたので電力事情は好轉するどころか平年の半分程度の發電量に減少しこのごろの様な電力不足が起つてしまいました。それでは何時もきらわれもの〻台風でさえ待たねばならないという破目に陥りました。そのあげくは雨乞い的な人工降雨實験が秋元湖上において實験されたのも皆さんの周知の通りでありまして、そのために雨が降つたか降らなかつたか、われわれを満足させるような効果は更になく、街のネオンは消え家庭の停電もしばしば行われて、われわれの日常生活を暗くしております、しかし石油や石炭などの少ない日本では水によつて發電する電氣以外にたよることは出来ないので水とそわれわれが毎日食べるお米にも等しい生命の糧となるのであります。このような大切な發電の源泉である水を自然まかせにしている現状の發電設備では將來お先眞暗な生活を余儀なくされる結果となりましようそこで政府はこの破局を打開するために只見川の上流開發を計畫し昭和二十七年から三十一年の五ヵ年間に今迄の水路式を廢し新しいダム式發電所十五ヵ所を建築しつゝあるのであります、その出力は三〇〇万キロワットと云う大容量をもつておりまして將來は明るくしかも雄大な見通しがついておるのであります。この輝かしい希望を前にその準備期間の一、二年の渇水時をわれわれの一人一人の節電に協力するという國家的節電協力運動が起つた理由もとこにあるのであります。福島縣におきましても來るべき本格的な渇水に備えて福島縣電力危機対策本部が組織されその指示に基き当町におきましても小名濱町を中心とした小名浜町節電協力會が十一月二十六日結成を見、隣組毎に協力班を組織し監視員を各區班別に自主的に巡視することになりましたから以上の事情を御認識の上節電に協力をお願いいたします。尚節電方法は次の事項により協力されまして節電妨害や非協力のお方が出ないようにくれぐ〱もお願い申上げます。尚不幸にして監視者に對して非協力者及妨害行爲者があつた場合は節電協力會と東北電力並に警察署の三者が協議しまして公益事業委員会告示第七號に抵觸するか否かを取調べて處罰されることになりますので念の爲

▼節電協力の方法

一、晝間の電灯は消燈すると夜間の電灯も取付數又は点灯燭數を半減にすることを原則とする事
二、契約外と電熱の使用停止
三、午後五時から午後十時迄の動力並電熱の使用停止
四、電灯、電力の不正使用は絶對止めること
五、廣告灯、看板灯、電飾、ネオンサイン(公共用のものを除き)使用しないこと(法律により禁止されている)
六、街路灯の点灯消灯は外灯の位置の最寄りの方が責任者となり点滅の責任を負うこと、電柱には責任者氏名を標示しておくこと
七、工場、事業場は制限を確守し且つ使用を一層合理化すること
八、官公廳關係は特に節電を勵行すること
九、商店、飲食店、映画館等の電灯及び業務用電力の使用は極力節減すること

家具大特賣
=毎度有難うございます=
御婚禮調度品の御用命は伊東の家具をゼヒ御利用下さい!!
洋服タンス 総桐タンス
ベビータンス けやき三重
鏡台 茶簞笥
其の他在庫豊富家具百般
只今特賣中で御座いますから
是非御來店下さい……
平市新川町 電464
伊東家具店
直營製造場 平市大町伊東工業KK

眞の女性美は……
御調髪のセンスから……
皆様がキットお氣に召す
技術と感覺はスズランの
自慢でございます
鈴蘭美容室
小名浜町下横町(驛前通り)

醇良銘酒
小名浜町 清水屋酒造店 電話六番

【商工會結成記念福引付】
湯本町 全町歳末大賣し
▽特賞湯本町商工會賞呈上その他各町内空前の大景品!!
▽お買上百円ごとに福引券一枚進呈
▽期日十二月十二日より三十日まで
▽抽籤場所 上町 表町 横町 東町 駅前 各町内抽籤所
協賛 湯本町 湯本町商工會

産婦人科 レントゲン
久保田醫院
院長 久保田眞
副院長 久保田眞一
助産婦 久保田イネ
小名浜町横町(電一二一)

塗料専門
建築、機械、自動車
船底、家具、各種塗料
繪具、附屬品販賣
株式會社 ダイヤ塗料商會
平市南町六七(平和通)

第三種郵便物認可　新聞定價一カ月60円 一部賣3円〔月曜休刊〕　**磐城日日**　昭和26年（1951年）12月19日（水曜日）【第416号】

中學卒業生の就職指導
職安と希望者面接
親として理解をもて

小名濱中學二校の來春卒業生は五百五十一名にのぼりそのうち進學希望者は一中で男子＝九十八、女子九十四計百九十二名二中は百十四名あり約半數は社会に巣立つことになるが、これについて平職業安定所では去る十三日鈴木失業保險課長らを小名浜に派遣して午前九時より二中、午後一時よりは一中にてそれ〴〵担任教官や就職希望の生徒と面接して職業相談も指導を行つた、その結果第一に感じられたことは生徒自身就職について積極性がなく何れも親任せ人任せと云つた傾向があり職安吉田課員の懇切な說明を聞けば皆それに憧憬を抱いて云われる儘に返事をするという自主性に乏しくこの点考慮せねばならず、また一般父兄も子供が社會に出る第一歩でもあり余程愼重に考え子供の個性と希望とを検討して善處することが望ましい、一中の本年度卒業生のうち就職希望者は緣故関係にてすでに男子八名、女子十三名計二十一名はほゞ決定をみており、職安を通して就職を希望しているのが男子十六名、女子十六名計三十二名あり、その他自家就業が男子二十六名、女子二十五名計五十一名となつている、その就職希望者は殆んど事務系統であり中には成績優秀であるが家庭の事情で進学の出來ない子供もある、そしてこの子供等は縣內より縣外の職場を望んでいるまた父兄の中には子供の將來と云うことを少しも孝えず就職先の內容等も調査せず就職を契約している人もあるらしい、小名濱はまだ封建性が多分にあり子に対する親としての無理解な面がはつきりとみられると係の教官は語つていた、また二中では緣故關係の就職者が男女合せて廿五名、自家就労が男女で七十三名あり職安經由による希望は男二名、女十二名計十四名あるが、これについて担任教官はまだ在学中のためか就職について父兄の關心がうすいように思われる、心配なことは周旋屋等に依存して子供の將來をあやまることであるなるべく子供の就職ということについては一應學校に連絡をとつて頂きたいと要望している

庶民住宅完成
廿四、五日に申込受付

完成を急いでいた小名濱町愛宕一四七番地に建築中の第三小名濱庶民住宅はいよ〳〵本月末完成するので小名浜町役場では左記要領により入居者の申込を受付けることになつた

住宅はABCの三種類で木造瓦葺平家一戸建、水道の設備あり

A＝九坪、五戸（六疊、三疊、炊事場物置）

B＝十一坪、十戸（六疊四疊半、三疊、炊事場物置、但三疊は板疊）

C＝十二坪、五戸（六疊二間、三疊、炊事場物置）

家賃は一カ月A八百圓、B九百五十圓、C千百円で家賃の三カ月分の敷金を納入することになつている

申込資格は公營住宅法により政令の定むる一定の所得あるものであることAは一カ月定所得八千円以上一万二千圓未滿の者で扶養親族三人以下のもののBは一カ月定所得一万円以上一万五千円未滿のもので扶養親族五人以下のもの

Cは一カ月定所得一万二千圓以上一万七千円未滿のもので扶養家族六人以下のもの

以上各項該当者で町稅及現家賃の滯りないもの

申込期間は十二月二十四日及二十五日の二日間で申込書により小名浜町役場厚生課で受付ける（申込用紙は同課にある）

入居の決定は申込書により事実を調査し選衡委員会に於て住宅困窮度基準により選衡するを原則とするも困窮度の同程度のもの多數ある場合は抽せんによつて決定するものとする

入居を許可された者は小名浜町營住宅の條例に基き所定の手續を了して入居することになつている

湯本でSDのパーテー

湯本町スクエヤーダンス倶樂部では來る二十五日午後六時より湯本公民館に於て一九五一年のさようならパーテーを開き会員七十名がクリスマスプレゼント交換会を行う

「銘菓」三函の雪
縣觀光連より推薦

湯本町小松屋菓子店では湯本商工会並に本社湯本支局の後援により当店で多年研究中の風味氣品共に他品の追從を許さぬ「羊かん」が出來との名稱を廣く一般から募集中であつたが、多数の應募がありいよ〳〵十九日〆切となり二十日の本紙上で發表することになつているが、果して一等の金的は誰が射止めるかと今から期待されている

なお同店の製造になる銘菓「三函の雪」はかねてより縣觀光連盟（会長石原幹一郎氏）に對して審査を出願中であつたが本縣の觀光みやげ品として優秀なることが認められこの程推選證が交附された

小名一中の授業參観

小名浜第一中学校父兄会では十九日午后零時四十分より本年度最後の授業參観及び懇談会を行うが一般父兄の出席を切望している

兒童、父兄の遊戯會

湯本町幼稚園ではクリスマスの行事として廿二日午前九時より公民館ホールに於て兒童、父兄合同で遊戯会を行う

婦人學級の運營委員會

湯本町婦人學級運營委員会は本十九日午後一時から公民館日本間で開催するが議題は一月八日行はれる婦人学級並に婦人学級今後の運營計画等についてである

天氣予報

（本日）南東の風晴れたり曇つたりの天氣で北部では一時小雨がありますが後よい天氣となりましよう

（海上）おだやかになりますが日中は多少風波が立ちます

魚菜市況 18

【小名浜中央青果市場】ねぎ七〇〜九〇、へら菜一五〜二八、大根一五〜一二〇、さともも九五〜一〇〇、さつま二一〜三七白菜二五、丸大根二〇〜三〇、干大根二九〜四〇たま菜四〇、ごぼう八〇〜九〇、ほうれん草八六〜一二〇、人蔘二〇〜四七、じやがいも四〇〜六〇、卵九、六〇〜一〇、七〇、さし柿六〇、ごま一一〇

【小名浜魚市場】さんま一五七、はも一七五〜二七〇、いか一二〇三〇〇、とんぼ三五〇、なめた三五〇、なた一〇〇、ぎす一五〇、たら一二〇〜一三五、えび一一〇〇〜一二七〇、ふぐ二〇〇、たこ一六一〜二〇〇、唐人八四

山綺談抄
鐵砲鶴と天狗 ②

昔から湯田中では「燒額の天狗」という傳說もありとの山頂には天狗が住んでいるものと里人は信じているだけにとの事件は忽ち村中に噂となつて傳えられた

六右ェ門は一日を休業さして酒をかつぎ上げ一同に振舞つて、同時に天狗を祭る祭事をやつたが、こうした怪異はその後も續き、六右ェ門の泊る夜に限つて劇しかつた、村人の勞役は彼の激勵にもかかわらず日毎に減つて行くので六右ェ門は氣をもんだ

この異狀な夜半の出來事は遂に六右ェ門の用水池計画を一時放棄せざるを得なくなつた、今でもとの工事の跡は歷然として殘りその堰形は北より東へ廻り現存していて当時の大計画を物語つている

明治二十八年のこと澁溫泉ではその腕前の優れたことで知られていた鐵砲鶴こと鶴さんという獵師がこんな告白をして人々を驚かせた

鶴さんはその頃いゝ若い衆であつた、燒額の工事に勞役として父親の代理で山へ登つたが餘り好ましい仕事ではない、大体が一寸惡戯好きの鶴さんはふと池畔にあるズヰ木と呼ぶ莖の中が空になつている植物を幾本もつなぎ合せて池の中に延し、一方の口より息を吹き入れると、池の眞中からブクブクと泡が出るので仲々不氣味である、少し水から離して人の名を呼ぶとよく聽える、そとで惡心を起し「六右ェ門」をやつてみたところ、意外の大事件になつてしまつた、それで止めればよいのに次の日振舞酒が出たのでこれはいゝぞとばかり續けてやつたという次第

鶴さんはこの話を告白してから笑つた、それまで燒額の大狗として傳えられた怪談もどうしてその正体を現わしたのであつた

この鶴さんこと鐵砲鶴といえば誰知らぬ人もない獵の名手であつたが奇妙なことに鶴さんの頭は金米糖のように瘤だらけであつた、それのいわれを聞くと仲々得難い武勇傳がある、この鶴さんは腰だめで獲物をとる、それが百發百中であるから驚く、若い頃高田の鎭臺へ入隊した、中隊射擊でとの男だけは腰だめで五十發滿点を採つて上官の舌をまかしたという、或るとき山で熊に出逢つたが突然のことでいきなり掛つてくる熊を得意の腰だめで一發スドンとやると見事に熊の下顎を射拔いた、傷手に氣負い立つた熊は鶴さんに挑みかゝるこの熊を鶴さんはまともに受けて立ち上つた前脚を摑まえた瞬間熊と一緒に小さい谷へ落ちてしまつた、鶴さんは奇蹟的に命拾いはしたがその鋭い爪は鶴さんの頭を滅茶苦茶に引掻いた、木瓜（ボケ）みたいな奇妙な頭になつたのはその時の名譽の負傷の痕である、併しその大熊は鶴さんに打ち殺されたのは勿論である澁溫泉の古老は今でも鶴さんのとの勇ましい一騎打ちの話をしてくれる（終り）

昭和26年度

石城郡（平市含む）下 十大ニュース？懸賞募集

逝く一九五一年の回顧とニュース関心の啓蒙のため石城郡（平市含む）下の一九五一年の十大ニュースを募集致します

適中者多數の場合は1月3日夜磐城座ステージに於て抽籤を致します

應募規定

○資格問いません
○用紙官製はがき（必ず十題記入のこと）
○〆切 昭和二十六年十二月三十日（當日消印有效）
○送先 小名浜町渚廻り 磐城日日新聞社宛
○發表 昭和二十七年一月三日 小名浜町 磐城座 藤越店頭

賞品

一等 三千円 一名
二等 一千円 二名
三等 五百円 五名
入賞 二百円 十名

◇賞品は凡て相当額品にて贈呈◇

十大ニュース適中者多數の場合は抽籤とする。適中者少數の場合は適中者以外は十大ニュースに近い順より決定する

選衡委員（順不同）

小名浜町長 水野政次郎氏
同 公民館長 高木長年氏
縣会議員 小野義一氏
小名浜町議会議長 長瀬彰義氏
同 地區警察署長 鈴木龍之助氏
同 海上保安部長 遠山武夫氏
同 教育委員長 木田谷平氏
同 消防署長 御代龜太郎氏
同 消防團長 志賀要平氏
同 体育協会長 石井正氏
同 商工会長 草野庄平氏
同 底曳漁協組合長 田島繁夫氏
同 潮會委員長 菊田敏氏
磐城日日新聞社々長 長瀬芳郎

協賛有名店（順不同）

小名濱町 叶屋文房具店
清水屋酒店
樋口呉服店
綠屋味噌醤油店
小泉金物店
丹カメラ店
大菱商店
吉田屋商會
國華堂菓子店
柏屋書店
ダルマ薬局
小名浜藤越
磐城座
大橋ガラス店
菅野時計店
大井洋服店

主催 磐城日日新聞社
後援 小名浜町役場 小名浜町公民館